羽合小
学校便り
文責　小林

はわいの風2

NO　54
令和３年
２月 18 日（木）

将来の夢（やりたい事）　教師という仕事

６年生が卒業を控え、先日、卒業生の将来の夢（やりたい事）が書かれた PTA 広報誌「ゆめ はわい」の原稿が校長室に回ってきました。「どれどれ、今年の卒業生はどのような夢（やりたい事）を書いたのかな」と思いながら読ませてもらいました。

男子はスポーツ選手がやはり人気で、女子は保育士、パティシエ、看護師などを書いている人が多かったです。具体的な職業ではなくで、人の役に立つ仕事がしたい、自分の親のように優しい人になりたいなど書いている人もいました。

「先生にはなりたくないけど、校長先生にはなりたい」と私に言った子どもがいました。どういう意味なのかはよく分かりませんが、近年教師をめざす子どもが少なくなったなと感じています。

ある調査によると、男子は１位がスポーツ選手、その後に医者、大工・職人と続きます。女子は保育士、看護師、パティシエ・パン屋で、５位にピアノなどの習い事の先生が出てきますが、男女とも１０位の中に教師はランクインしないようです。

私が教師になろうと決めたのは、高校生の時、倉吉市の放課後児童クラブにボランティアで行ったのがきっかけでした。一緒に勉強をしたり、外で遊んだり、プールで泳いだりして、楽しい時間を過ごした体験が将来やりたいことに変わりました。

教師をめざし大学を出て小学校の採用試験を受けたのですが、なぜか実技試験もしていないのに中部の中学校の講師となり、次の年も小学校で受けたのですが、中学校で採用となり、大山の麓の学校に体育の教諭として赴任しました。赴任した中学校に意気揚々と出勤したのですが、ウエルカムムードは一切なく荒れる中学生を相手に悪戦苦闘の毎日でした。そして念願の小学校の先生として中部に帰らせてもらい今に至っています。

教師という仕事は確かに大変なこともあります。でも子どもの成長に関われるというかけがえのない喜びもあります。その喜びと同じくらい重い責任もありますが、人の成長やこれからの生き方に関われる仕事はそう多くありません。そこに教師としての喜びを感じながらこれまで教員生活を送っていきました。

先日の新聞に「公立小学校教員採用試験の倍率　過去最低」という記事が載っていました。私が採用試験を受けた４０年ほど前は倍率がとても高く、大卒採用はとうていありえない狭き門でした。しかし今では教員という仕事が若者には大変な仕事、長時間労働当たり前のブラックなイメージがあるのでしょうか、年々受験をする若者が少なくなってきています。人材不足はどの業種でも同じだと思いますが、教職に魅力を感じる若者をどうにかして増やしていきたい。そのためには私たち教師が、信念を持ち子どもに信頼される教師として、明るく元気に子どもたちに接することが大切だと思っています。中部教育のために汗を流す人材がこの羽合地区からも出てきてくれることを願っています。